春日小だより

令和8年 10 月 30 日
練馬区立春日小学校
校 長　磯貝 和裕
学校通信　11 月号

下手でもいいじゃん

副校長　市 村　大

私が小学校の教員を目指すと決めたとき、２つのことがとても不安でした。ひとつは給食。実は子供の頃からかなり偏食で、当時の給食では、盛られた分は必ず食べる完食指導が基本でしたから、毎日のように昼休みや５時間目まで食べていました。今の給食は本当においしいし、量も調整できるので、教員になってからこの不安は解消されました。もうひとつの不安は図工の授業。実は図工が大の苦手で、私が教えるなどとんでもないと思っていました。東京の場合は、ほとんどの学校で図工専科がいるから、授業をする機会はないと思っていましたが、初任で１年生担任を任され、図工専科がつかなかったので本当に苦戦しました。しかも、その年に展覧会だったので、何が何だかわからないうちに時間だけが過ぎていきました。今振り返っても、冷や汗が出ます。

図工の指導に関しては、その時の先生や地域によっても様々な考えがあるので一概には言えませんが、私が子供の頃に受けた指導は、乱暴に言えば「成果主義」でした。「上手な作品をつくる」ことがすべてで、絵が下手で手先が不器用だった私には苦痛でしかなかったです。こういう時に巡り合わせもあり、２・３・４年生の時の担任の先生は、超ベテランの図工が専門の方だったので、目をつけられました。きっと、熱心に指導してくださったのだと思うのですが、数か月間、毎日私だけ絵の宿題が出され、自由帳に身近なもののデッサンを、時間を計って描いてくるように言われました。それで実際にうまくなればよいのですが、なるわけもなく、ただただ苦痛な時間でした。昔から絵が下手で笑われ、練習してもうまくならず、すっかり自信を無くした私は、今でも人前で絵は描けません。今の時代、AI やインターネットがあって、本当によかったです。

自分が教員になり、いろいろな図工専科の先生の授業を見るようになって、子供たちを本当に羨ましく思いました。私が受けてきたような授業にはほとんど出会いません。先生方は、子供たちの可能性を信じ、子供のもつ創造性を最大限に引き出そうとしています。また、現在の学習指導要領・図画工作科の目標には、次のような一文があります。

「つくりだす喜びを味わうとともに，感性を育み，楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い，豊かな情操を培う。」

本当に、こういうことを目指すべきなのです。プロの絵描きになるわけではないのですから。私みたいに、絶望して、二度と絵を描きたいと思わないような人間を育てないでほしい。下手でもいいから、図工が人生を楽しく豊かに彩るものであってほしいです。

春日小学校では、11 月 26 日（木）～28 日（土）まで展覧会が行われます。（保護者鑑賞日は 27・28 日）。テーマは「想像を超える、創造。」かっこいいですね！超えちゃいましょう、想像を。皆様のご来校を心よりお待ちしております。